



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



真空採血管による採血について

昨年10月の日本臨床検査医学会総会で、「真空採血管の安全性の検討」と題する研究発表があり、真空採血管に血液が注入された時点で駆血帯をはずした場合に逆流が生じること、真空採血管の中には滅菌処理されていないものが多く、逆流が感染症を引き起こす可能性があること、医療用真空採血管はすべて滅菌処理が望ましいこと、等が報告されました。この内容は、NHKテレビでも報道されました。

その後、11月17日付けで厚生労働省より通知「真空採血管の使用上の注意等の自主点検について」が出され、操作方法・使用方法について注意が呼びかけられました。

各事業所では、これを受けて 真空採血管を滅菌済みの製品に切り替えた 採血手技の見直し、整備を行った 翼状針へ切り替えた などの対応が行われていますが、一方で「高齢者や血管の細い人などに対応できない」「静脈に確実に刺入するまで何度もやり直さなければならない」などの意見も寄せられています。

現在、欧米の製品はほぼ滅菌済みとのことですが、日本製品ではほとんどありません。日本のメーカーも今年7月には、ほぼ全面的に滅菌処理済みの製品に切り替える見込みです。

医療安全委員会では、当面、以下の2点を呼びかけます

- ・できる限り滅菌済み製品に切り替える
- ・採血手順の見直しを行う。（見直しにあたっては、東京都の感染予防マニュアルなどが現実的で参考になる）

また、全日本民医連として共同購入連絡会などと情報交換しながら、メーカーへの働きかけを強めていくとともに、厚生労働省へもメーカーに対する指導を強めるよう、働きかけることとします。

< 参照先 >

東京都健康局ホームページ

<http://www.kenkou.metro.tokyo.jp/ian/>

看護協会 真空採血管使用上の注意について

<http://www.kiyose.nurse.or.jp/anzen/saisin/shinkuu.pdf>

日本臨床衛生検査技師会

<http://www.jamt.or.jp/>

欧米の情報

<http://www.bdj.co.jp/pas/products/1f3pro000000pyeu.html>